

ハピネス計画オリーブプロジェクトの考え方(案)

○オリーブプロジェクトの経緯

- ・各方面との連携により町のブランド化を進める中で、Y&Aの紹介により国内外へ通じるブランド力を構築出来る可能性があるオリーブに焦点を当て、日本オリーブ協会との連携による産地づくりの提案があった。
- ・オリーブは地中海沿岸で主に生産され、ヨーロッパを中心に広く親しまれている。
- ・美容、健康によいとされ国内の需要は大きく増加している。
- ・国内には小豆島をはじめとする産地はあるが、少ない。
- ・国内の品質基準は国際規格となっていないが、今後国際規格へと移行して行く中で高品質なものが求められている。

○みなかみ町での取り組み理由

- ・国内ではオリーブ生産は温暖な土地でのみで行われているが、本場のイタリアでは、品種改良等も進み、積雪のある寒冷地でも沢山のオリーブが生産されている。
- ・町の気象データ及び土壌の分析（試験栽培予定地）を行ったところ、栽培が可能である可能性が高い。
- ・国内では産地も少なく、特に寒冷地では行われていないことから、他地域と差別化した産品になりうる可能性を秘めている。
- ・比較的作業量も少ないとされ、町内の増加している耕作放棄地対策としての土地利用や、既存農家や兼業農家のプラスαとしての産品として期待できる。
- ・現在国が力を入れている6次産業としての可能性が非常に高い。
- ・健康まちづくり宣言を行っている中で、健康食品としてオリーブを活かした食育などの取り組みが期待できる。

○取り組みのコンセプト

- ・国際基準に合致した高品質のオリーブオイル等を生産する。
(日本オリーブ協会によるほ場の認定)
- ・観光と農業の町としての取り組みの中で、みなかみ町でなければ購入できないブランド商品として、また、希少性を活かし、町に足を運んでもらう施策を展開する。
- ・6次産業化による高付加価値化を図る。
- ・国内外の産地との連携により、みなかみに来ると様々なオリーブオイルが手にはいるような取り組みを行う。(日本オリーブ協会、Y&Aとの連携)
- ・オリーブオイルを使ったレシピの研究等により食育につなげる。
- ・オリーブオイルを使用する料理に良くあう薬物野菜等の生産も推進し、食と農を活かした観光農業の展開を目指す。
- ・耕作放棄地対策として作付けを推進し、農業収入の増加を目指す。

オリーブプロジェクトのスケジュール(案)

項目	内容	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
気象データ・土壌分析の実施	気象条件、土壌条件の確認	⇔						
イタリア人技師による現地調査	地形、周辺の果樹等の状況など現地調査 目的等の条件にあわせた苗木等の選定	⇔						
実証試験の実施(栽培) 【みなかみ農村公園公社ほか】	栽培適性の調査 栽培技術の確立、 栽培コスト、作業量等の把握		←					
実証試験の実施(収穫・加工)	収穫量や製品の品質の調査 実の収穫・加工の実施、 加工のコスト・作業量等の把握				←			
作付けの拡大・推進 【各生産者等】	実績に応じた栽培適地等の調査 作付面積の拡大 農家への作付けの推進				←			
加工施設の整備	設置コスト、運営コストの調査 管理方法等の検討 搾油・瓶詰め等施設設置の検討						←	
オリーブの活用と販売の促進	オリーブを活用したまちづくり方法の検討 町内利用や観光販売など販路の検討						←	